

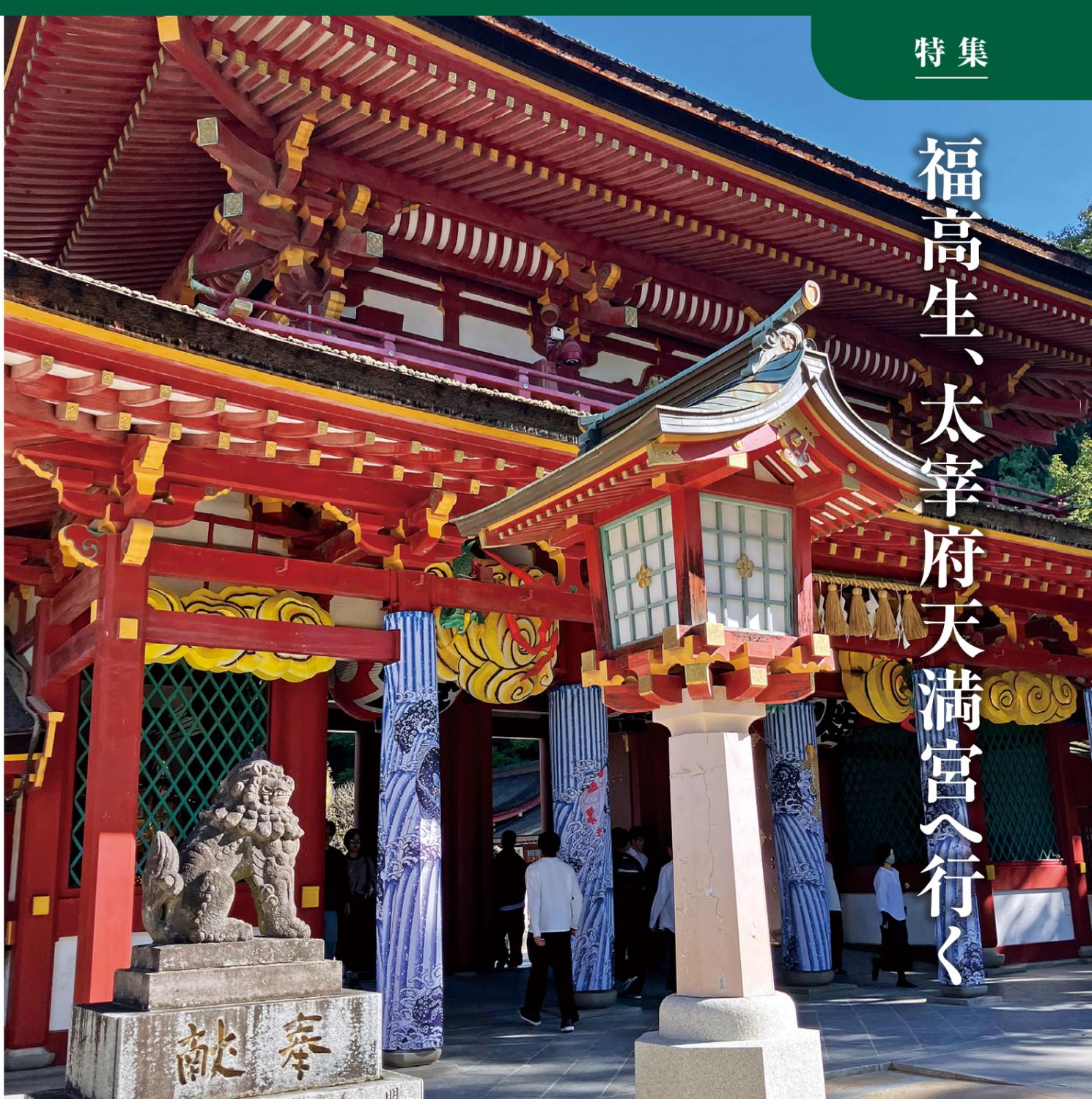


第57号

梅苑会報



福高生、太宰府天満宮へ行く



令和七年度の福島高校の研修旅行では、二学年の生徒たちが九州地方を中心地とした文化探究研修を行いました。班ごとに分かれ、自分たちで大学や研究機関にアポイントメントを取り、探究活動について自分たちの研究の紹介をしたり、貴重な御意見を伺ったりしました。

御尽力による太宰府天満宮との御縁あつてこそであることに、改めて感謝を申し上げます。

この研修旅行のまとめとして、生徒たちが太宰府天満宮を訪れました。太宰府の梅の恵与より、深いご縁をいただいている太宰府天満宮への参拝は、生徒たちにとりまして、感慨深い訪れとなったようです。宮司さんから梅を仲立ちとした、太宰府天満宮と福島高校との繋がりについて改めて御説明をいただき、また特別に昇殿が許され、そこでは、今後の生活が実りあるものになるようにとの御祈禱をいただくことができました。

同窓会には「太宰府梅基金」が設けてありますが、ここ数年は収入を後援費の一部から繰出しているの運営になっており、余剰金も不足しており、昨年の梅の木の新恵との折りには皆様に特別寄付をお願いいたしました。今後も再恵与等の必要性も考えられますので、今後は同窓生の皆様からの一口金千円の御協力を収入とし、支出削減に努める独立会計として再生させていただきますと考えています。皆様の御理解、御協力をお願いする次第です。

このような貴重な機会をいただくことができたのも、同窓生の皆様の



福高の晩

column

「梅章」新聞「墨塗事件」の真相 松野力(十期生)

新聞が好きで中学生の頃から「謄写版」で学級新聞を作った。福島高校に入学して「梅章」新聞部に所属し、私が三年生で編集長の時、校史に残る? 「墨塗事件」を起

員でなるべく読めるように墨を薄く塗って配布した。福島テレビでは福島高校創立百周年の「特番」を放映し、この「墨塗事件」も取り上げられて、私も少し出演した。

こした。刷り上がった新聞を配布前、顧問の先生に見ていただく。私が呼ばれ「この記事のこの部分はまかりならん、読めぬよう墨を塗って渡せ」と激怒された。「ロボット人間的な教師」との見出しで、機械的に教え込む先生を批判する記事の露骨な表現(「味も素っ気もなく、無表情で苦虫を噛み潰したような暗い顔で歩く」など)が指摘された。テーマを部員で討議し、それを取りまとめて書いたのが、同期のI君。怒った先生は、細身で独眼、生徒に一番人気のあったM先生。部

高の教師になるが、まさか機械的に教え込む教師にはならなかっただろう。私は学力不足と経済事情で進学を断念。福島民友新聞社に就職し、四十六年間勤務した。中学生時代から憧れていた、「新聞」に携わることが出来た人生に悔いはない。

遠い昔の、六十九年も前の出来事。しかし、彷彿として昨日のように今に蘇る。忘れようにも忘れられない、懐かしい思い出。同部で気の合った仲間との「飲み会」は今も欠かしてはいない。

※同窓会報では、「コラム」の原稿を募集しております。四百字程度で、福島高校同窓会報担当までお寄せください。

令和8年度予算書(令和7年9月1日~令和8年8月31日)

令和8年度 一般会計予算書(案)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	235,109	
(2)卒業生入会金	840,000	R6年度入学生(280名×3,000円)
(3)卒業生年会費	560,000	R6年度入学生(280名×2,000円)
(4)同窓生年会費	4,000,000	会員(1,200名 コンビニ振込)
(5)雑収入	2,000	利息
(6)繰入金	0	母校後援会計より
合計	5,637,109	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
1.事業費	4,020,000	
(1)総会費	450,000	定期総会開催に関する費用
(2)会議費	50,000	第1回役員会、第2回役員会
(3)梅苑会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代等
(4)HP管理費	120,000	同窓会ホームページ維持管理
(5)会費納入費	400,000	コンビニ振込手数料
2.運営費	1,607,000	
(1)事務諸費	2,000	文具、振込手数料
(2)交際費	60,000	関東梅苑会総会、みやぎ梅苑会総会参加費
(3)慶弔費	10,000	慶弔
(4)通信費	5,000	書類送付代、切手代
(5)旅費	420,000	関東・みやぎ梅苑会・総会参加旅費
(6)繰出金	1,100,000	コンビニ振込後援費へ繰入
(7)雑費	10,000	
3.予備費	10,109	
合計	5,637,109	

項目間の流用をお認め願います。

令和8年度 母校後援会計予算書(案)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	210,617	
(2)卒業生年会費	840,000	R7年度卒業生(280名×3,000円)
(3)同窓生年会費	1,200,000	会員(200名 ゆうちょ銀行)
(4)繰入金	1,100,000	一般会計から(コンビニ振込)
(5)雑収入	300	利息等
合計	3,350,917	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)後援費	300,000	母校への助成等
(2)部活動助成	300,000	全国大会出場への部への助成金
(3)卒業記念費	300,000	卒業証書ホルダー
(4)一般会計	0	一般会計への繰入金
(5)太宰府梅基金	0	太宰府梅基金への繰入金
(6)梅苑会館維持管理費	1,300,000	梅苑会館維持管理への繰入金
(7)会員名簿管理費	720,000	令和7年度分
(8)予備費	430,917	
合計	3,350,917	

項目間の流用をお認め願います。

令和8年度 梅苑会館維持管理会計予算書(案)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	5,291,424	
(2)積立金	1,300,000	母校後援費より
(3)雑収入	300	利息
合計	6,591,724	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	5,120,000	記念碑・合宿棟照明器具更新
(2)備品費	100,000	
(3)予備費	1,371,724	
合計	6,591,724	

項目間の流用をお認め願います。

令和8年度 太宰府梅基金会計予算書(案)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,405,961	
(2)同窓会梅基金	1,000,000	梅基金(約1,000名×1,000円 ゆうちょ銀行を含む)
(3)雑収入	1,000	利息
合計	2,406,961	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)飛び梅交際費	550,000	旅費、接待費、諸経費等
(2)飛び梅管理費	70,000	肥料・消毒代等
(3)予備費	1,786,961	
合計	2,406,961	

項目間の流用をお認め願います。

令和8年度 一六回奨学会計予算書(案)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	504,478	
(2)同窓会寄付金	0	
(3)雑収入	2,000	利息等
合計	506,478	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)交付金	500,000	令和8年度交付金(1名)
(2)予備費	6,478	
合計	506,478	

項目間の流用をお認め願います。

令和7年度決算書(令和6年9月1日~令和7年8月31日)

令和7年度 一般会計決算書

収入決算額...5,594,508円 支出決算額...5,359,399円 次年度へ繰越額...235,109円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	291,018	291,018	
(2)卒業生入会金	798,000	798,000	R6年度卒業生(266名×3,000円)
(3)卒業生年会費	266,000	266,000	R6年度卒業生(266名×1,000円)
(4)同窓生年会費	3,000,000	3,930,000	会員(786名 コンビニ振込)
(5)雑収入	50	9,490	利息 その他
(6)繰入金	500,000	300,000	母校後援費より
合計	4,855,068	5,594,508	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	4,260,000	3,771,237	
(1)総会費	450,000	444,370	定期総会開催に関する費用
(2)会議費	60,000	48,000	第1回役員会、第2回役員会
(3)梅苑会報費	3,300,000	2,934,062	梅苑会報印刷、郵送代等
(4)会費納入費	450,000	344,805	コンビニ振込手数料
2.運営費	462,000	1,588,162	
(1)事務諸費	2,000	1,766	賞状用紙、振込手数料
(2)交際費	40,000	59,000	関東梅苑会総会、みやぎ梅苑会総会参加費
(3)慶弔費	0	0	
(4)通信費	10,000	6,912	書類送付代、切手代
(5)旅費	400,000	417,470	関東・みやぎ梅苑会・総会参加旅費
(6)繰出金	0	1,100,000	コンビニ振込後援費へ繰入
(7)雑費	10,000	3,014	アルミ賞状額縁
3.予備費	133,068	0	
合計	4,855,068	5,359,399	

令和7年度 母校後援会計決算書

収入決算額...2,738,927円 支出決算額...2,528,310円 次年度へ繰越額...210,617円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	116,564	116,564	
(2)卒業生年会費	266,000	266,000	R6年度卒業生(266名×1,000円)
(3)同窓生年会費	3,000,000	1,100,000	会員(170名 ゆうちょ銀行)
(4)繰入金	0	1,100,000	一般会計から(コンビニ振込)
(5)雑収入	50	156,363	応援歌現代語訳集、寄付金、利息
合計	3,382,614	2,738,927	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援費	250,000	240,350	同窓会HP維持管理、各賞記念品
(2)部活動助成	200,000	286,050	全国大会出場助成、大会広告料
(3)卒業記念費	280,000	286,360	卒業証書ホルダー
(4)一般会計	500,000	300,000	一般会計への繰り入れ
(5)太宰府梅基金	100,000	100,000	太宰府梅基金への繰り入れ
(6)梅苑会館維持管理費	1,300,000	600,000	梅苑会館維持管理への繰り入れ
(7)会員名簿管理費	720,000	715,550	会員データ管理業務
(8)予備費	32,614	0	
合計	3,382,614	2,528,310	

令和7年度 梅苑会館維持管理会計決算書

収入決算額...5,291,424円 支出決算額...0円 次年度へ繰越額...5,291,424円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	4,686,499	4,686,499	
(2)積立金	1,300,000	600,000	母校後援費より繰入
(3)雑収入	300	4,925	利息
合計	5,986,799	5,291,424	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)修繕費	5,500,000	0	
(2)備品費	100,000	0	
(3)予備費	386,799	0	
合計	5,986,799	0	

令和7年度 太宰府梅基金会計決算書

収入決算額...1,959,931円 支出決算額...553,970円 次年度へ繰越額...1,405,961円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	1,858,338	1,858,338	
(2)同窓会梅基金	100,000	100,000	母校後援会計より繰入
(3)雑収入	50	1,593	利息 お祝い
合計	1,958,388	1,959,931	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)飛び梅交際費	640,000	531,420	旅費、接待費、贈答品
(2)飛び梅管理費	240,000	22,550	
(3)予備費	1,078,388	0	
合計	1,958,388	553,970	

令和7年度 一六回奨学会計決算書

収入決算額...3,004,478円 支出決算額...2,500,000円 次年度へ繰越額...504,478円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	3,000,834	3,000,834	
(2)寄付金	0	0	
(3)雑収入	386	3,644	利息
合計	3,001,220	3,004,478	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)交付金	3,000,000	2,500,000	令和7年度交付金(5名)
(2)予備費	1,220	0	
合計	3,001,220	2,500,000	



同窓会会長
芳賀 裕
(高校第22回卒)

青春の熱、
いつまでも

昨年は、昭和100年、戦後80年にあたり、わが国の激動の歴史を振り返る機会となりました。昭和23年に福島県立福島高等学校となった母校もそれから77年の歴史を刻んできたことになりました。皆様

の人生の中にも何かのきっかけで、立ち止まり熟考し、新たな一歩を踏み出す、という機会が何度もあったことでしょうか。その最初が福高在中だったという方も多いのではないのでしょうか。

関西万博の会場全体の照明デザインディレクターを務められた東海林弘靖氏(高校29回卒)が、福高卒業後49年間の「光と人間の関係」を探究した時間の旅を振り返り、地球上で生きる人間として、今あらためて福島に心を寄せる思いを話されました。これに先立ち関東梅苑会総会が5月30日に、みやぎ梅苑会総会が9月5日に催され、各会場で同窓生の元気な校歌が響き渡りました。今年の同窓会総会は11月13日、関東梅苑会総会は6月5日、みやぎ梅苑会総会は9月4日に予定されています。令和10年には母校創立130周年を迎えますので、同期会、職域グループ、部活OB会等の立ち上げも皆様にお願いたします。楽しい素晴らしい伝統をこれからも継承していききたいと思います。

昨年、丹治正博副会長がリーダーの「会務見直し検討プロジェクトチーム」から種々提案をいただき以下の総会承認

をいただきました。①同窓会規約を現状の運用に合わせて改正をする。②太宰府梅基金が東日本大震災とそれに伴う原発事故後の状況の中でも梅苑精神のもとで学んだ誇りを胸に刻んで欲しいと同窓生の切なる思いが太宰府天満宮のご理解を得て結実したという意義と経緯を再周知し「一口1,000円のご協力をお願いする。③会費等振込は、年会費2,000円、後援費3,000円に太宰府梅基金1,000円と合わせ6,000円を定額としてコンビニ振込をお願いする。

このように今後も同窓生の皆様とともに時代に沿った改革をしながら「会員の連絡協調」と「母校の発展援助」の向上を図ってまいりたいと存じます。



福高
同窓会総会

令和7年度「福高同窓会総会」は11月14日(金)18時よりホテル福島グリーンパレスを会場に開催されました。今年度は同窓会の皆様のお気持ちにより新聞でも大きく宣伝をした結果、例年よりも多くの会員の皆様に足をお運びいただくことができました。

総会に先立つ記念講演では、2025大阪・関西万博の会場デザインプロデューサー補佐として御活躍なされた、有限会社ライトデザイン照明デザイナーの東海林弘靖さん(高校29回卒)による「太陽の地球で人間と」と題した御講演をいただきました。照明は、生命の根幹にかかわる大切な環境要因で、人間の暮らしの中で心癒したり勇気呼び起こしたりする重要な要素であることを、床面照度は低くも、訪れた人を光で包むような照明の在り方についてなどを、今までの豊富な御経験の中で出会われたオーロラや月光の光など、豊富な写真スライドの資料とともにお話をいただきました。

関東梅苑会だより

〈福島市長 馬場雄基さんインタビュー〉 社会は福高で学んだ

2025年11月、福島市長選に当選したばかりの馬場さんにインタビューを依頼。朝から晩まで役所のレクチャー（事前説明）漬けの中、週末にわずかな時間をもらって福高の思い出や卒業後のことを振り返っていただいた。

インタビュー・文責 島田久・両角康史



福島市役所初登庁の挨拶

福島市長 馬場 雄基さん(高校63回)

【プロフィール】

1992年（H4年）郡山市生まれ、福島市育ち。
めばえ幼稚園、福島大学附属小・中学校、福島高校（2011年3月卒）、慶応義塾大学、三井住友信託銀行を経て松下政経塾（38期）。
アオウゼ事業統括コーディネーター、ふくしま地域活動団体サポートセンター連携・人材育成コーディネーター（2021年）、衆議院議員2期（2021年-2025年）、福島市長（2025年12月～）

福高で社会に出ていく土台をすべて教わっていたような気がします。自分の力で社会を変えるときか、周りの人に自分が信じてもらえる感覚を体感させてもらったのが福島高校でした。高校の経験は、自分は社会の一助になれるという気持ちで育み、その気持ちで大学に進んでも社会人になっても心の中に固く残っていました。その思いがどこかで政治の道につながっていたのだと思います。福高で学ばなければ政治家を目指すこともなかったでしょう。

福高の思い出・大切な学び

生徒会長をしていた2年生の後期、学校への携帯電話の持ち込み禁止という通達が出され、先生からは生徒会として協力してほしいと言われました。その通達文書を見てもうと、情報リテラシーを高めるために携帯電話の校内持ち込みを禁止する。という趣旨が書かれていました。しかし本来、情報リテラシーを高めることが目的なのではなく、自ら律し、適切に使う力を身につけるべきではないかと疑問に感じ納得できませんでした。

確かに当時（2010年頃）、ワンセグを使って教室内でテレビを観たり、授業中に携帯電話の着信音が鳴るなど秩序がなく、ふさわしくない使い方をしている生徒が多かったです。生徒会で話し合いを重ね、また、休み時間のたびに先生方ひとり一人に自分たちの想いを話して意見交換をさせていただきました。自分たちで適切な携帯電話の使用ルールを作り、それを2ヶ月間試した上で、それが授業運営に問題ないと先生たちから判断されたら、福島高校は自分たちのルールで携帯電話を使っても



生徒会長時の
新春座談会記事に掲載(高校2年)

いいのではないかと、という考えに至り行動を始めました。

全クラスの学級委員長やすべての委員会の委員長、部活動の部長に協力を依頼したり、生徒総会で生徒会ルールの説明を行いました。ルール徹底のために全クラスを回り、機運を作り上げる取り組みも行いました。職員会議を改めて開くよう何度も働きかけたり、PTAの方々は、福高は通達とは異なる独自のルールでやりたいので協力してほしい。と協力を呼びかけました。数か月間の取り組みでしたが、結果的に福島高校は自主ルールの下で校内の携帯電話の使用が認められることになりました。

高校生にとって大人社会はとてもしんどい存在であり、県の通達の変更は難しいと受け止められていた中で、学生を見守る大人たちが、学生の自由を受け入れて物事を動かしてくれたことや、ルールや秩序を守る努力を生徒に託してくれたことは、そこに

大人の寛容があったからこそ実現したことだと思います。先生方や保護者の方々には感謝の気持ちしかありません。そして福島高校だったから許されたことだったと思います。本当に尊い時間を経験させてもらいましたし、新井田校長はじめ先生方からかけてもらった言葉や思い出は忘れられません。

絶対にこれはやるべきことだと思った時に、その秩序とやり方を正しく作ることさえできれば、賛同者とともに物事を動かすことができると思っています。そうした想いで政治家として歩んでいるのは、高校時代での出来事があったから。福島高校で社会に参加する土台を教えてもらったと思っています。

福島復興の決意・政治家へのきっかけ

高校3年生の3月に東日本大震災に遭い、その年に慶應義塾大学法学部政治学科に進学しました。一向に収まらない放射能汚染が日々報道され、日本中が不安だった2011年3月末、開通したばかりの高速バスに乗り、後ろ髪引かれる思いで上京。進学のためとはいえ、先輩から「逃げるんですね」と言われた

ことが頭に残り、ふるさととの距離ができていました。政治に関心はあったものの、将来は公務員か民間の立場で社会インフラを作る一翼を担いたいと漠然と考えていました。

その後、銀行に就職して2年目の神戸支店で働いていた時のことです。神戸は震災から立ち直った町なので、いろいろな時に福島復興を願う励ましの言葉をもらうことが多く、故郷のことはいつも頭の中にありました。島根県で行われた植樹祭のイベントにボランティアで参加し、偶然、福島第一原子力発電所近くの町から避難していた子どもに出会いました。一緒にイベントを楽しみ、担任の先生や親御さんから「引越してから心を閉ざしていた息子が、久しぶりに明るい笑顔を見せてくれた」と感謝の言葉をもらいました。

震災から5年経過しても福島の子どもが未だに遠く離れた地で避難生活を送っている現実を目の当たりにしたこと、言葉にならないほどの衝撃でした。この時、いつか誰かがやるのではなく、今自分が



24時間以内に100kmを歩く、松下政経塾伝統の荒行

できることに全力を尽くしたいと強く思いました。試行錯誤の末、その策を講ずるため、そして自分にそのスキルを身に付けるために松下政経塾に進むことを選択しました。

松下政経塾は、自治体における地域活性化や企業経営などのテーマに自ら取り組み、塾でのレビューやフィードバックを通じて実践力を磨く、政治や経営の次世代リーダーを育成する塾です。MBAのような講義や学位はなく、「自修自得」の理念のもとで各々のテーマを自ら計画し実行し評価することが求められます。自分にとっては福島の復興に自分がどう関わることができるかを探っていく時間になりました。後半の2年間は松下政経塾の研修生という立場で「アオウゼ（福島市曾根田）」の新しい在り方や事業をプランニングする仕事に関わらせてもらいました。

国会議員の経験を活かし、地元の復興に貢献

卒業後は、「アオウゼ」を運営する「福島まちづくりセンター」の職員としての仕事のほか、福島県内の法人設立を支援する「ふくしまNPOネットワークセンター」での仕事や福島大学での研究という3つの仕事をかけもちでスタート。しかし、その矢先に衆議院議員選挙・福島2区への立候補要請がありました。松下政経塾を経て自ら切り開いた道をやりはじめたいと強く思っていたのでお断りするつもりでした。しかし、本当に地方自治をやりたかったら、国の制度を理解し、地方の仕事を正しく制度に反映してもらうことこそ必要。それが福島復興の一助になるはず、と家族から背中を押され立憲民主党の公認候補として立候補する道を選びました。やりかけた仕事を途中で手放すことになり、周りの方々には本当に申し訳ない気持ちで一杯でしたが、それでも温かく送り出してくださったことに心から感謝しています。

身内や親族に政治家が誰もいないし、後援会なしの状況でしたので、新聞には巨大戦艦と小舟の戦いと書かれました



衆議院本会議での代表質問

が、2021年10月の開票では85501票の負託を受け比例東北ブロックで当選し、初の平成生まれで最年少国会議員となりました。所属する立憲民主党は議席をのばせず、衆議院でわずか96議席、同期の仲間は15名しかいなかったため、党の立て直し策として若手育成を重視。当時、20代国会議員はわたし一人でしたので、自ずと注目され、党派を超えて声をかけてもらうことが多く、たくさんのご指導をいただいていたと思います。そのお陰で予算委員会や本会議で登壇させてもらえるチャンスにも恵まれました。加えて高校3年生で東日本大震災に遭い、福島復興にかけるわたしの想いを党が理解してくれたこともあり、議院運営委員会や財務金融委員会、経済産業委員会、環境委員会などのさまざまな仕事をさせてもらいました。

国会質疑においては野党が主役で、与党よりもバッターに立つ回数も多く与えられます。官僚や秘書に任せず、自ら調査し

魂を込めてまとめました。質疑を終えた後、呼び止められ声をかけていただくこともあり、より良い政策を目指す者同士の党派を超えた仕事に関わることができました。そうした議員としての経験に加えて、霞が関の若手官僚や国会の次世代リーダーとのつながりは最大の宝物です。東日本大震災から丸15年を迎える中で復興支援に対する勢いは年々低下し、自立が求められています。わたしたちは福島の状態を国に発信し続けるなど、さまざまな形でしっかり復興事業を進めていきます。

大学生や若い社会人へのメッセージ

かつては最年少の国会議員、今は現職の県庁所在地の最年少市長などと、わたしに対しては「若さ」が取り上げられています。個人的には若いということはデメリットだと思っています。それは、経験値が少ないゆえにうまくいかないことが多いからです。でも見方を変えれば、若さは失敗の経験を多く持つメリットがあります。なぜなら、失敗したことで多くの先輩方の知恵や知見を取り入れ、うまく自分にアジャストさせる機会を



福島市議会での所信表明

数多く持てるからであり、それを試す時間がたくさんあるのも若さの特権です。たとえうまくいなくてもトライし続けることで、若さというデメリットがメリットに変わるのだと思っています。うまく行かず壁に突き当たったとしても自分を卑下する必要はないでしょう。経験ある人に相談して視野を広げたり、新しい世界に触れてみるなどに日々取り組んでいくことが大切なのだと思います。

◆◆

福島高校のある地元に戻ってくるのができて誇らしく感じながらも、市が抱えているさまざまな課題解決に向けた仕事が始まったばかりで緊張もしています。仕事は大変でも、それを乗り越えていく先に、支えていただく方々と一緒に感じるやりがいがあるのだろうと信じています。同窓生のみなさんの温かい応援をこれからもよろしくお願いたします！

関東梅門クラブ2025年総会

日時 2025年11月21日

場所 U-cafe (東京・上野)

福島高校野球部関東地区OB会「関東梅門クラブ」の2025年の総会が、昨年11月21日(金)に開催されました。昨年2月に行われた梅門クラブ(福島)の役員改選で、長らく関東梅門クラブを率いてこられた小松恭三さん(14回)が顧問に、橋本守世さん(33回)が新会長にそれぞれ就任され、関東梅門クラブとしては代替わりした最初の総会となりました。

大学生の就活に力強いエールが送られるなど、終始賑やかな会となりました。同じグラウンドで汗を流した野球部OBOGたちが世代を超えてつながり、福島高校同窓会の輪が広がることを期待します。

【新体制】

会長 橋本守世 / 33回
副会長 原田亮一 / 37回
副会長 小筆 稔 / 38回
事務局長 笹島淳一 / 49回

当日は、福高野球部を率いる矢部恭平監督と、教え子の現役大学生6人(74回、77回)が参加し、最近の部の様子などを話してもらいました。大学生の父親と参加したOBが野球部同期だということが判明したり、40数年前のエピソードが明かされたり、また、



新役員

(左から原田・小筆副会長、橋本会長、笹島事務局長)



世代を超えて24名が参加

みやぎ梅苑会だより

令和7年度総会・懇親会開催

令和7年9月5日(金)ホテルJALシティ仙台(仙台市青葉区花京院)にて開催されました。20代から、80代までの総勢50名、本部同窓会・関東梅苑会から7名のご来賓も遠路はるばるお越しいただきました。総会では事業・決算報告が行われ、次年度の事業計画、予算案、役員改選、規約改正が承認されました。



みやぎ梅苑会総会・懇親会

【役員改選】

会長 橋本俊一さん (高校21回卒)
副会長 西村晃一さん (高校28回卒)

【規約改正】

今年も、参加人数がさみしい結果となりました。みやぎ梅苑会は学生の参加者は完全無料、20代の参加者は格安にて参加できます。どの年代にも魅力ある同窓会にしていきたいと役員・事務局一同がんばっております。「百聞は一見にしかず」福島高校同窓生の絆を感じていただきたいと思います。



新任会長より



会長 橋本 俊一 (高校21回卒)

昨年9月の総会で福島高校同窓会宮城県支部(みやぎ梅苑会)の会長に選任されました高校21回生の橋本俊一です。前任の落合敏伸会長には、多大なるご尽力を賜り心より感謝申し上げます。私なりにみやぎ梅苑会ならびに同窓会の発展のために全力をつくして参りたいと思っております。ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。みやぎ梅苑会の紹介をしながら活動を紹介いたします。宮城県・仙台市には福高の卒業生が大勢居住しており、各方面(宮

その後会長が亡くなったことなどで活動が弱体化し有名事実化しましたが、学年同期会やクラス会等は活発に行われていました。福高創立100周年に向け宮城県支部再建の動きがみられ、福島中学47回生の後藤充氏が発起人代表となつて平成8年(1996年)11月に再建され現在に至っています。再建発起人名簿には在仙の卒業生60人ほどが名を連ねています。「みやぎ梅苑会」は、毎年9月に総会・懇親会を開催しているほか、年数回の役員会・土業者の集いである「KANZA会」・ゴルフコンペを開いて交流を深め、HPで報告しています。

また現在休会していますが、仙台出身の「土井晩翠先生が作詩した校歌を歌う会」が隔年開催(過去10回開催)され、土井晩翠の母校である仙台市立立町小学校の講堂で合唱部の卒業生が中心となつて「♪徽章は香りのいみじき梅花」の校歌を男声4部合唱で披露したことがあります。(この様子は、過去の同窓会報誌で紹介しています) 最近のみやぎ梅苑会は、若い卒業生や女子の卒業生も参加するようになっており、わずか3年間の高校生活ではあっても先輩や後輩たちとの交流や福島の話題で盛り上がっているのを感じます。年1回の総会/懇親会だけではなく、福高の卒業生であることを多くの機会に意識してほしいと思います。その一環として「みやぎ梅苑会」のHPをさらに充実させ、多くの卒業生の交流の場になればと願っています。 福高同窓会・関東梅苑会ともども「みやぎ梅苑会」これからもよろしくお願いたします。

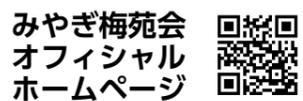
総会・懇親会 当日配布資料 出席者名簿は「みやぎ梅苑会オフィシャルホームページ」にてご覧ください。



令和8年度は、9月4日(金) 18:30

より同会場にて開催予定です。100人で校歌を歌うのが悲願です。宮城県にお住まいの方のみならず参加いただける方、大募集中です。同窓生にお声がけをお願いいたします。

みやぎ梅苑会の活動は「みやぎ梅苑会オフィシャルホームページ」にてお知らせいたしますのでご確認ください



みやぎ梅苑会 オフィシャルホームページ 検索 https://miyagi-baienka.com/



福島高等学校長 丹野 純一

福高のフィロソフィ

各界で活躍する同窓生のお話を聞く機会があります。皆さん、高校時代を振り返り、部活動や梅苑祭、個性あふれる友人や先生との出会いを通して、キャリアにつながる多くのことを学んだとお話になります。福高には、昔から、ちよつと変わった生徒や先生もいて、「多様性」が、常識にとられない発想や創造性を生んでいたように思います。それを支えていたのが、自由闊達な校風、福高の伝統である「自由」の精神であったと私は考えます。しかし、時代の変化の中で、福高生に限った話ではなく現代の日本社会では、SNSの影響もあってか、人の目を気にしすぎてみんな同じになっていないか？同調圧力により自分を出せないでいるのではないか？型にはまりすぎていないか？型でせいでイノベーションが起きづらくなっているのではないか？そう感じます。

既存の発想からは思いもよらない新しい何かを生み出す、イノベーションを起こす人には三つの共通点があるといわれます。第一に「型にはまらない」、第二に「ひとまずやってみる」、第三に「失敗して、前進する」。シリコンバレーで投資家が事業のスタートアップに出資するかどうか判断する際に重視する視点が、果たしてそのメンバーたちが失敗を経験しているかどうかです。どんな決断にもリスクはつきものであり、挑戦の先には失敗の可能性が横たわっています。リスクゼロの挑戦などチャレンジではありませんが、コンフォートゾーン・安全圏から飛び出して、不完全であってもやってみて、失敗したらそこから何かを学びさらに前進する。不完全でも、完璧じゃなくてもいい、失敗したからこそ開ける未来、時に予期せぬ未来が待っている。と信じて進んでいってほしい。

生徒たちにはそう伝えていきます。また、かつて慶應義塾大学の塾長であった小泉信三は、すぐ役に立つことは、すぐ役に立たなくなる」という言葉を残しましたが、タイプ、コストという言葉が飛び交う現代ではますます効率化、無駄の排除が進んでいます。しかし、生徒たちには、目先の効率や結果だけでなく、世界全体を見渡し、人類の大きな時間の流れの中で、自己や社会、国家をみる感性を磨いていってほしいと思います。そのために、高校と大学での学びはあのだと思います。

部活動成績 令和7年度部活動成績 (主に東北大会以上を掲載しております。)

- 【陸上競技部】 ●第30回東北高等学校新人体育大会……………男子400mH/7位 田部裕
- 【剣道部】 ●第73回全日本都道府県対抗剣道優勝大会……………男子団体/出場
●令和7年度東北高等学校剣道選手権大会……………男子団体/ベスト8
●令和7年度全国高等学校総合体育大会……………男子団体/出場
●第52回東北総合スポーツ大会……………男子団体/出場
- 【フェンシング】 ●令和7年度全国高等学校体育大会……………フルレー/和田大世
- 【アーチェリー部】 ●令和7年度第43回東北高等学校アーチェリー選手権大会……………男子団体/出場 高橋侑季、佐藤諒磨、吾妻弘望、渡邊祥平
女子個人/出場 矢部ひかり、藤田香凛
●高円宮賜牌第58回全国高等学校アーチェリー選手権大会……………男子団体/出場 高橋侑季、佐藤諒磨、吾妻弘望、菅野空
女子個人/出場 矢部ひかり
●令和7年度東北高等学校アーチェリー選抜大会……………男子団体/出場 佐藤諒磨、安田力、小林孝明
女子個人/出場 渡部紗彩乃、小野瑞季
- 【ソフトボール部】 ●第51回東北高等学校男子ソフトボール選手権大会……………ベスト8
- 【写真部】 ●第49回全国高等学校総合文化祭写真部門……………出場/菅野葵
- 【管弦楽部】 ●第14回日本学校合奏コンクール2025全国大会グランドコンテスト……………優秀賞
- 【将棋部】 ●第61回全国高等学校将棋選手権大会 福島県大会……………男子団体戦/第1位(全国大会出場)
●第34回全国高等学校文化連盟将棋大会 福島県大会……………男子個人戦/第2位 佐々木唯汰(全国大会、東北大会出場)
第3位 大橋勝成(東北大会出場)
第5位 鈴木翔太(東北大会出場)
- 【囲碁部】 ●第49回全国高等学校総合文化祭……………団体戦/大将・山上信太郎、三将・橋浦菜々子
●第39回東北地区高等学校囲碁選手権大会……………男子団体/3位(第20回全国高等学校囲碁選抜大会出場)
- 【SS部】 ●日本生物学オリンピック2025……………全国銅賞/白坂柊弥
●化学グランプリ2025……………全国金賞/白坂柊弥、東北支部表彰/谷代由希
●令和7年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会……………奨励賞(全国4位相当)/東海林航太、新保恵太、小坂文翔
●国際学会ESRAH2025……………特別賞/渡邊丈樹、高橋蓮人、岡田理子、小澤春愛、本多登愛
●学生科学賞福島県大会……………県知事賞/中央予備審査入選3等:守谷史佳
●福島ロケットチャレンジ2025……………特別賞(アストロX賞)/栗原然、根本弦希、伊藤福恵、高橋明佳
- 【梅章編集部】 ●第30回全国高校新聞年間紙面審査賞……………入賞
●第50回全国高等学校総合文化祭 あきた総文2026……………推薦



進学展望

進路希望の動向

令和8年度大学入学共通テストの志願者数は496,237人で、3年連続で50万人を下回り、少子化の影響が顕著である。共通テスト志願者に現役生が占める割合は84.7%と昨年よりは微減(マイナス1.3%)したものの、近年の受験は確実に「現役生同士の戦い」となっている。近年減少が続いていた既卒生の志願者は71,310人で昨年より6,723人の増加で、特に「2浪生」の増加が顕著であった。背景には、今年度からWEB出願となり、卒業証明書を母校から取り寄せる必要がなくなったことがあったという。そうした手続き上の利便性とはともかく、見方を変えれば、2浪しても(あるいは実際には大学に在学中であっても)大学受験に再挑戦したことであったという。大学受験に再挑戦したいと思わせる状況下であるとも言える。難関大学は依然として厳しい競争環境にあるが、少子化の影響で全体としての受験競争は確実に緩和した。昨今、誤解を恐れずに言えば「入れる大学」はいくらでもある。そのため、いざ入学したものの、自分の興味・関心や大学生活の環境とのミスマッチから、再挑戦したい「潜在的な受験生」は増えている感がある。やはり、「入りたい大学」への志こそ、何より大切にしたい。

今年度は教科書の内容が変わった新課程2年目の共通テストで、「様子見」だった昨年とは異なり、事前の予想通り難化した。科目間の平均点のバラつきもあつた。テストの難易調整に伴う平均点の乱高下はしばらく続くだろう。この教科書と問題の長文化に対応した「速読力」と限られた時間内で情報を適切に処理する「精読力」が求められ、それらの「読解力」の差が上位層と下位層の「二極化」をもたらすという点は、今後変わらないだろう。共通テストの得点は、大学の個別試験で求められるいわゆる「二次力」(記述を基本とした答案作成能力)と相関が

ある。それはセンター試験と比べて、「覚えてきたこと」そのものではなく、覚えてきたことを活用して「考えること」に力点が置かれているからである。すぐにも役立つ小手先の技術ではない、骨太な論理的思考力をじっくりと養うことこそ、二次試験のみならず共通テストの成否にもつながる。

全国的な出願傾向としては、国公立大が堅調な人気を示している。学部系統別では、近年の「理高文低」ではなく、今年度は文系学部への人気が高まった。大学別では、東北大学には、東北地区のみならず関東・東海地方などからも志願者が集まっている。国内初の「国際卓越研究大学」の指定を受けた東北大学は、今後も高い人気が見込まれる。本校の志願動向としては、「指定国立10大学」をはじめとする難関大学や地域拠点大学への出願は、例年並みであった。東北大学への出願は、総合型選抜への出願が昨年よりも増加した。共通テストの平均点はダウンしたものの、私立大学への幅広く受験しながら、国公立大学への出願では志望を貫いた志願者が伺える(詳細は「入試出願状況」参照)。

東京大学の学校推薦型選抜では4年連続で合格者を輩出し、2名合格という全国でも稀な複数合格は2度目となった。SSH校として探究活動が学校文化として根付く中、座学の勉強のみならず実践的な探究活動にも挑戦しようと思える雰囲気醸成されているのが、本校の強みであろう。また、県立医科大学に関しては、総合型選抜2名、学校推薦型選抜5名の計7名がすでに現役合格を決めている。県教委指定の「医学コース」事業では、本校OBの協力添えを賜り、福島市医師会の全面協力の下、今年も市内6病院と連携した模擬実習や座談会などを企画・運営していただいた。こうした諸先輩方の支援による生徒の活動の充実が、進路実現への追い風になっているのは間違いない。

入試出願状況

(現役の延べ数、学校推薦型・総合型選抜を含む) 2月12日現在

項	大学名	令和7年	令和6年	令和5年
国公立大	北海道大	4	10	3
	北海道大前	2	3	5
	北海道大岩手	8	3	3
	北海道大東	76	63	89
	宮城大	7	11	13
	宮城大秋	3	10	2
	山形大	12	22	22
	福島大	42	45	56
	茨城大	8	12	20
	筑波大	8	14	15
	宇都宮大	13	6	11
	宇都宮大玉	27	23	20
	千叶大	24	31	25
	お茶の水女子大	3	1	1
	東京大	8	7	11
	東京大京外	4	3	1
	東京大京芸	10	10	9
	東京大京科	4	4	3
	東横大	2	3	2
	横国大	6	12	9
	新潟大	46	51	28
	金沢大	2	1	1
	名古屋大	1	0	0
	京大	2	3	0
	大阪大	1	2	0
	神戸大	0	1	1
	九州大	1	1	0
	その他	28	36	26
	国立大・小計	352	389	377
	県立大	46	35	39
	県立大津	1	5	3
	高崎大	5	9	8
高京大	13	3	7	
その他	36	26	32	
公立大・小計	101	78	89	
合計	453	466	466	
私立大	東北学院大	33	23	24
	青山学大	29	19	8
	慶應義塾大	11	12	10
	上智大	7	5	5
	中央大	40	42	67
	津田塾大	4	1	1
	東理大	15	27	20
	法政大	69	76	62
	明治大	67	70	45
	立教大	34	39	26
	早稲田大	62	35	25
	その他	508	342	312
	合計	879	691	605

大学合格者数 (過年度卒を含む、私立大は延べ人数)

※令和3年度から7クラス。

項	大学名	令和6年	令和5年	令和4年
国公立大	北海道大	4	2	4
	北海道大前	1	4	0
	北海道大岩手	0	0	4
	北海道大東	21	34	32
	宮城大	4	7	5
	宮城大秋	2	2	1
	山形大	6	9	8
	福島大	18	20	35
	茨城大	4	8	1
	筑波大	5	7	5
	宇都宮大	3	3	3
	宇都宮大玉	10	7	9
	千叶大	8	8	2
	お茶の水女子大	2	0	0
	東京大	1	5	4
	東京大京外	2	0	1
	東京大京芸	4	3	5
	東京大京科	1	2	3
	東横大	3	0	1
	横国大	3	4	8
	新潟大	20	13	24
	金沢大	0	1	2
	名古屋大	0	0	0
	京大	0	1	0
	大阪大	1	0	0
	神戸大	1	1	0
	九州大	0	0	0
	その他	5	9	14
	国立大・小計	130	150	172
	県立大	24	20	24
	県立大津	3	2	2
	高崎大	2	2	2
高京大	1	2	2	
その他	6	16	11	
公立大・小計	36	42	41	
合計	166	192	213	
私立大	東北学院大	21	25	55
	青山学大	7	1	5
	慶應義塾大	8	4	8
	上智大	1	1	3
	中央大	18	24	35
	津田塾大	1	1	7
	東理大	15	10	22
	法政大	32	24	23
	明治大	30	10	24
	立教大	11	10	11
	早稲田大	12	10	15
	その他(海外含む)	209	250	221
	合計	365	370	429
	準大学(省庁大)	0	0	1
短期大	1	1	2	
各種学	0	2	2	
就職	0	0	0	

会費等の納入方法と金額が変わりました！

昨年度から同窓会費等の納入がゆうちょ銀行の振込に加えて、コンビニエンスストアからの振り込みもできるようになりました。コンビニ振込の取り扱い可能な店舗は同封の振り込み用紙の裏面をご確認ください。誠に勝手ながら今年度より同窓会年会費と母校後援費に太宰府梅基金を加えて6,000円を納入していただくようになります。また、6,000円以上を納入していただく場合はゆうちょ銀行の払込取扱票をご活用ください。詳細な内容は、こちらの二次元コードからご確認ください。



会員情報の変更方法が変わりました！

昨年度から住所等の変更を福島高校同窓会ホームページ上で変更の手続きができるようになりました。ホームページの「同窓会について」から「会員情報変更について」に進んでいただいて必要事項をご入力ください。ご不明な点がございましたら同窓会事務局（福島高校）にお電話にてお問い合わせください。会員情報は、こちらの二次元コードからも変更ができます。



令和7年度同窓会費の納入にご協力ありがとうございました！

令和7年1月から12月期に会費を納入していただいた方のお名前を福島高校同窓会ホームページに掲載しました。ご協力ありがとうございました（名簿記載に同意されなかった方、お名前を確認できなかった方は掲載しておりません）。納入者名簿は、同期の方々の思い出していただき、合わせて納入失念にお気づきいただけるとの趣旨で掲載させていただきます。この名簿は会員以外へお渡しになりませんよう、ご留意願います。納入会員名簿はこちらの二次元コードからご確認いただけます。



寄贈図書紹介（令和7年1月～12月）について

今年も多くの方々から本校図書館へ寄贈図書をいただきました。福島高校図書館の充実に御協力いただき、ありがとうございました。寄贈図書は、同窓会ホームページ上で紹介させていただいております。

第26回梅苑会（福島高校同窓会） 親睦ゴルフ大会の御案内

期日 令和8年5月24日（日）
問い合わせ 福島ゴルフ倶楽部 民報コース
TEL：024-549-0244 まで

是非
ご参加
ください

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

令和7年度 同窓会役員

会長 芳賀 裕	高22	理事 横山 純	高17	理事 大内 弘之	高27	理事 板垣 隆	高37
副会長 みやぎ梅苑会会長 橋本 俊一	高21	理事 木戸 孝志	高17	理事 鈴木 真一	高27	理事 三浦 康伸	高39
副会長 重富 秀一	高21	理事 小林 勇一	高17	理事 片平 淳	高28	理事 日下 直哉	高39
副会長 関東梅苑会会長 箱崎 一彦	高23	理事 勢島 昇	高18	理事 五十嵐 俊道	高28	理事 佐藤 智宏	高39
副会長 澁谷 修一	高24	理事 斎藤 高紀	高18	理事 高荒 昌展	高28	理事 渡辺 勝久	高42
副会長 丹治 正博	高26	理事 花井 宣明	高20	理事 加藤 勇治	高29	理事 日黒 貴裕	高42
副会長 芳見 弘一	高28	理事 伊藤 幹夫	高20	理事 土田 淳	高29	理事 引地 孝之	高44
常任理事 磯貝 健郎	高13	理事 網代 智明	高21	理事 加藤 孝一	高30	理事 吉田 大樹	高45
常任理事 富田 建一郎	高16	理事 佐々木 孝司	高21	理事 関東梅苑会事務局長 島田 久	高31	理事 内池 崇	高45
常任理事 熊坂 英二	高18	理事 中田 茂実	高21	理事 八子 直樹	高31	理事 中尾 勉	高46
常任理事 佐藤 信雄	高21	理事 安藤 正道	高21	理事 大和田 利明	高31	理事 渡辺 研也	高46
常任理事 大野 順雄	高22	理事 黒澤 信雄	高22	理事 八子 直樹	高31	理事 八木沼 修一	高47
常任理事 穂積 寿男	高23	理事 木村 豊	高22	理事 樋口 幸一	高32	理事 本多 修一朗	高47
常任理事 石原 裕人	高24	理事 二階堂 保夫	高22	理事 藤野 貴	高32	理事 佐藤 永之	高48
常任理事 後藤 忠久	高26	理事 菊田 透	高22	理事 吉成 健二	高33	理事 杉本 涉	高48
常任理事 今関 達也	高28	理事 江口 淳	高23	理事 関根 英樹	高33	理事 佐藤 充孝	高50
常任理事 関東梅苑会副会長 鈴木 秀明	高29	理事 鈴木 浩一	高23	理事 渡辺 健二	高33	理事 山尾 祥大	高51
常任理事 太田 英晴	高31	理事 高荒 俊勝	高24	理事 手塚 徹	高34	理事 遠藤 武義	高52
常任理事 篠木 雄司	高33	理事 尾形 省二	高24	理事 菅野 剛広	高34	理事 伊藤 大地	高52
監事 尾形 克彦	高22	理事 菅野 京一	高24	理事 菅野 剛広	高34	理事 磯 一弥	高54
監事 長谷川 敏朗	高28	理事 高橋 通夫	高25	理事 曳地 利光	高35	理事 菅野 太喜	高55
理事 渡辺 博美	高17	理事 土屋 牧雄	高26	理事 鈴木 宏幸	高36	理事 尾形 翔平	高56
		理事 武藤 進	高26	理事 阿久津 順二	高37	理事 金子 與志幸	高58
		理事 矢森 真人	高26	理事 黒森 陽一	高37	理事 谷口 隆治	高58

令和7年度 母校出身校長

校長 丹野 純一	高37
-------------	-----

令和7年度 事務局員

国分 聡	高33
堀江 誠克	高35
斎藤 実	高37
佐藤 達男	高37
富良謝 和信	高48
菅野 陽介	高54
渡邊 優輔	高54
菅野 祐哉	高56
香野 学	高56
矢吹 秀司	高60
高橋 美子	高61

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392
https://www.baienkai.org

みやぎ梅苑会事務局

〒981-3134 仙台市泉区桂2-15-12
TEL.080-1825-5205（武藤）
https://miyagi-baienkai.com

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（島田 久）
https://www.kantobaienkai.ne.jp